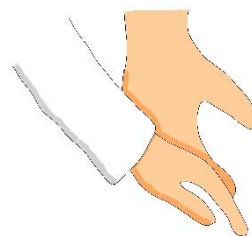


見えにくさへの支援 6

～盲導犬とともに～

ある日のことでした。通勤途中の公園で、時々見かける盲導犬を連れた方が、立ち止まっているところに出くわしました。パートナーの盲導犬とのやり取りが聞こえてきたのですが、どうやら、公園内のルートを見失い、小道に入り込んでしまったようでした。

そこで、「どうされましたか？ガイドしましょうか？」と声をかけると、援助依頼があったので、ハーネスを握っていない右手の甲に、そっ



とこちらの手首辺りを触れ、私の肘辺りを握ってもらいました。そして、どちらに向かうか確認しながら移動をしました。その方は、小道からいつものルートに入るところにある木をランドマーク（目印）にしていたようなので、そこまでガイドをしました。その方はいつものルートに出られて安心され、感謝の言葉とともに、実は新しいパートナーの盲導犬を迎えて、まだ十分にルートが分かっていなかったようだとのお話をされ、その場は別れました。



そして、その次の日のことです。偶然、またその方を公園の入り口でお見かけしました。私は迷ったのですが、心配だったので、立ち止まってその方が昨日ルートを外れてしまったところをパートナーとともにクリアできるか遠目で見届けました。

目印の大きな木まであともうほんの少し来たところで、その方は右手で辺りを探ります。私は「あと少し右！」と心で唱えました。そして、その方はなんとかランドマークの木に触れることができ、安心したように、これだよ！とパートナーと繰り返し確認し、いつものルートを歩いていけました。

✚ 盲導犬を見かけたら

盲導犬はペットではなく、大切なパートナーです。大切な仕事をしている最中なので、かわいらしいからと言って、次のようなことは絶対にしてはいけません。

- ★盲導犬に声をかけたり、じっと前から見たり、口笛をならしたりしない。
- ★盲導犬に食べ物を見せたり、あげたりしない。
- ★盲導犬をなでたり、ハーネスを触ったりしない。
- ★自分のペットとあいさつさせようと近づけたりしない。

以上、公益財団法人日本盲導犬協会 HP より

盲導犬に限らず、白杖（はくじょう）を利用する視覚障害者を見かけたときは、「盲導犬がいるから大丈夫だろう。」などと思わずに、何か困っていることないかな、と気にかけてください。そして、危険な方向に進もうとしていると感じたら、「盲導犬の方（白杖の方）止まってください。」と迷わずに声をかけてください。視覚障害者が駅のホームから線路に転落してしまう痛ましい事故がいまだにあります。声をかけることは勇気のいることですが、その勇気には感謝とお互いの安心感という大きな見返りもあることでしょう。